



Subaru

男声合唱団

ニュースNo.471 '14. 7. 28

## 昂第14回総会開催

7月20、21日

□7月20日（日）、21（月・祝）の両日、昂の「第14回総会」を行いました。20日（日）の夕刻、新大阪ユースホステルに集合し夕食、風呂の後、食堂で懇親会を開き、宿泊、翌日21日（月・祝）は同棟の大阪市立青少年センターの会議室で午前中に総会、昼食後、同じ会場でレッスンを行いました。

### □和やかに懇親会

懇親会は34名の参加、千秋団長の挨拶と乾杯の音頭の後、まずは昂を「勇退」されることになった藤後名誉団長の「勇退」の挨拶、千秋団長からの感謝の言葉の後、コスモス団員の佐藤さんから送られた花束を藤後名誉団長に一同感謝の拍手のうちに贈呈しました。





□「藤後名誉団長の勇退」に際し、千秋団長から、下記のメールと同じ内容で挨拶がありましたので下記に転載します。

藤後名誉団長様

「私の勇退」メール頂きました。

正直続行して欲しいとの思いが強くあります。

しかしながら藤後さんがここまでおっしゃるには相当悩み、また覚悟されての決断だと思います。

85歳の藤後名誉団長の姿は、私はもちろん、みんなを励ましてこられました。

体は年齢と共に衰えたといつても、その都度の厳格で情勢を見据えた提言は、団を引き締め、勇気を与えてくださいました。とりわけ戦争を体験されて来られた貴兄の言葉は、団の平和への気持ちを強く高めてくれるものでした。

今後ステージに立てなくなつたとしても、団を大きく支えていただきたいと願うものです。

団創設当時からこの間の活躍ぶりはあまりあるものがあります。中でも、私にとっては、指揮者問題解決への尽力は忘れることはできません。今後とも貴兄の体の許す範囲の中で、うたごえ運動への尽力を衷心よりお願いします。

私たちも、今総会を成功させ、10回目のコンサート成功めざし奮闘する決意です。

私たちもいつかは迎えるであろう勇退を、85歳まで頑張ってこられた藤後さんは、私たちの目標でもあります。長い間の活躍本当にご苦労様でした。お体をご自愛ください、私たちにもあたたかいご支援をよろしくお願いします。

男声合唱団昴団長 千秋昌弘

□新入団の皆さんのお自己紹介とアピールを皮切りに、次々全員が自己紹介とスピーチをしました。今回も、皆さんざくばらんに雄弁に自分を語りましたので、実に多彩で豊富な人生経験を持った団員の集まりだと前回にも増して、再認識し、お互いに尊敬し合って団活動をして行くうえで、さらなる推進力となる、有意義な懇親会になったと実感しました。

□例年のごとく、吉田さんには早くから懇親会の缶ビールやつき出しなどを自家用車で運んで準備していただいた上に、今年も、圧力釜でゆがいた特製枝豆、柔らかくておいしいトウモロコシ、仕上げの冷ソーメンを全員にふるまって頂きました。とても美味しかった、これが無くては収まりません、吉田シェフに感謝です。お手伝い有難うございました。

## □活発な討議の総会

第14回昂総会は37名の参加で、千秋団長の挨拶のあと、石橋議長を選出し、配布済みの議案書に基づき活発に討議しました。

□健康を第一に、80名の団にする目標へ向けての施策・活動、日本のうたごえ祭典・宮城の成功へ向けての活動、再来年2月か3月の第10回昂コンサートへ向けての活動、選曲やヴォイストレーニングなどを主テーマにして、活発な提案討議がなされました。



□時間内に討議しつくされなかった問題は後の企画・運営委員会で深めていくこととし、「活動の総括」、「新年度活動方針」、「会計報告と新年度予算」、「会則の一部改正」、「役員体制」を挙手により満場一致で可決し、新年度への活動の意欲も新たに総会を閉じました。

## □「アムール河の波」と合発曲をレッスン

同日午後からのレッスンでは、本並先生の指揮、森さんのピアノで、10回コンサートの候補曲の「アムール河の波」と、合発表曲の「降りつむ」、「街を返せ」をレッスンしました。全37名の参加でした。



□新入団員の川妻さんに「総会の感想」を投稿して頂きました。ありがとうございました。

## 初めての合宿・総会に参加して

バス 川妻成美

昴に入団して2ヶ月あまり、初めての合宿は、何もわからないまま大胆にも昴に飛び込んだ自分の判断が間違っていた、というより思っていた以上のすばらしい合唱団だと実感できた合宿になりました。

交流会ではそれぞれの歩んでこられた山あり谷ありの人生が語られ、熱く心にしみいる感動的な時間でした。みんなが発言者の思いに共感し、喜びも苦しみもわがことのように聞き入っている、そんな時間が持てるのは昴という合唱団の一番大切な宝物、入団以来今までまだ何もしやべっていない人が多いのになぜが居心地の良さを感じていましたが、その秘密がわかったような気がしました。そして昴のうたごえの持ち味であるたくましさや温かさの原点がまさにここにあるのではと納得させられました。

また総会では綿密な議案書により昴の全体像がよく理解できました。提案に対して多くの人から率直な意見が出され、思いを一つにして頑張ろうという意思統一できたことは、みんなで決めてみんなで作りあげる昴の貴重な機会であったと思います。

一本の木にたとえると、交流会はお互いの人生経験をそれぞれの肥やしにして思いを膨らませ団結を強め広げる根であり、総会は14年間に刻んだ年輪がはぐくんだ成果を見つめ、さらに伸びゆく全体を支える確かな幹だといえます。そして今後の日々の練習や取り組みが枝を広げ葉を茂らせる活動であり、その成果が10回記念コンサートの成功として大きく花開き実を結ぶかはこれからのがんばり次第ということだと思います。

そこで私個人の課題は何かと考えると、暗譜するということです。とりあえず歌詞とメロディーを覚えて無難に歌うだけなら何とかなりそうな気もするのですが、今楽譜を見て歌っても指揮者に指摘されたことを次回の練習では忘れていることが多いのに、20曲以上も暗譜して自分のベストが発揮できるはずがないという不安が大きくのしかかっています。しかし先輩方が乗り越えてこられた壁ですから頑張るしかない、人数のプラスでなく昴の力になれる力量を早くつけたいと願っています。

そしていよいよ迫った団内コンサート、私の初舞台でもあります。実力と自信のある方が発表する場でその他の者はパート別の合唱と聞いていたのに、バスではソロを受け持てと言われ「おいおい！なんでやねん！」と心の中でぼやきながら・・・、全くの素人の歌い方ですが、昴の皆さんなら(最初ぐらいは)あたたかく見守ってくださるかなと甘えて覚悟を決めました。開き直って意外と楽しみにしている自分がいます。

この合宿を通して、昴入団という選択が私の人生に大きな力を与えてくれることに確信を持てました。この年になってこんな新しい人生が開けるとは！わくわくしながら毎日を過ごしています。ありがとうございました。